

第2章. 未婚者の恋愛・結婚状況

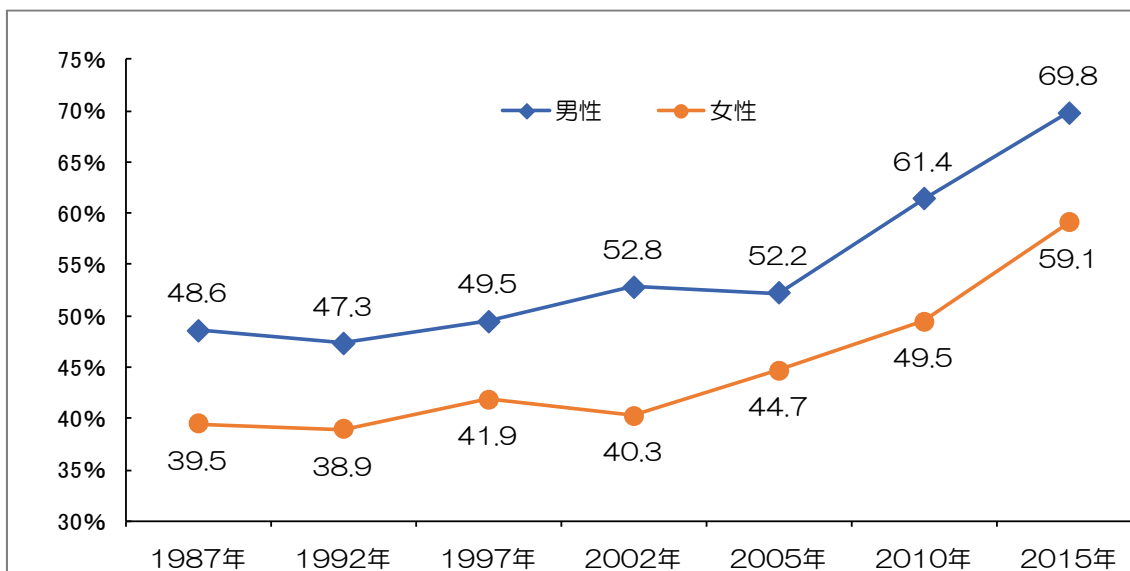
ここでは、皆さんが今後かかわることになる未婚者の方たちを取り巻く社会の変化をみた上で、社会とともに変化する結婚に関する意識・行動を理解し、未婚者の方の希望をかなえる結婚支援とは何かを考えていきます。

<意識>

(1) 男女別にみる「交際相手がない割合」の推移

～結婚をめぐる社会情勢の変化～

18歳から34歳の男性の約7割、女性の約6割は、「交際相手がない」。



天野馨南子 (2021) 『未婚化する日本』「日本における18歳から34歳の若い男女の「交際相手がない」割合の推移」 P52

※使用データは国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」
(2015年の独身者調査の有効票数は8,752票)より

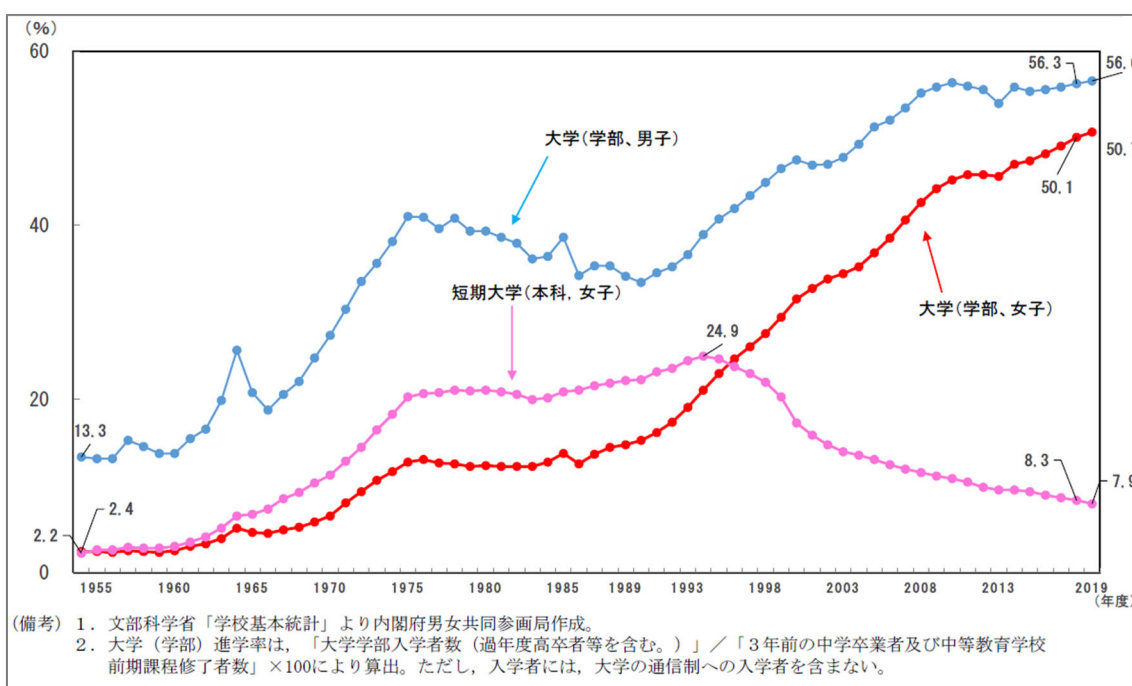
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・「18歳から34歳」のいわゆる結婚適齢期ともいえる若い男女の「交際相手がない」割合をみる。すると、一度も結婚したことがない男女のうち、男性で7割、女性で6割が、「結婚」の前段階の「恋愛」という段階にさえ至っていない状況であることがわかる。

(2) 男女別進学率の推移 ～結婚をめぐる社会情勢の変化～

結婚をめぐる社会情勢は、ここ30年ほどで大きく変化。4年制大学進学率について男性は57%、女性は51%。男性間の進学率の差が縮小、約半数で「学生時代の延長化」が進む。



内閣府男女共同参画局『結婚と家族をめぐる基礎データ』「男女別進学率の推移」(令和3年12月14日)

研修時のポイント等

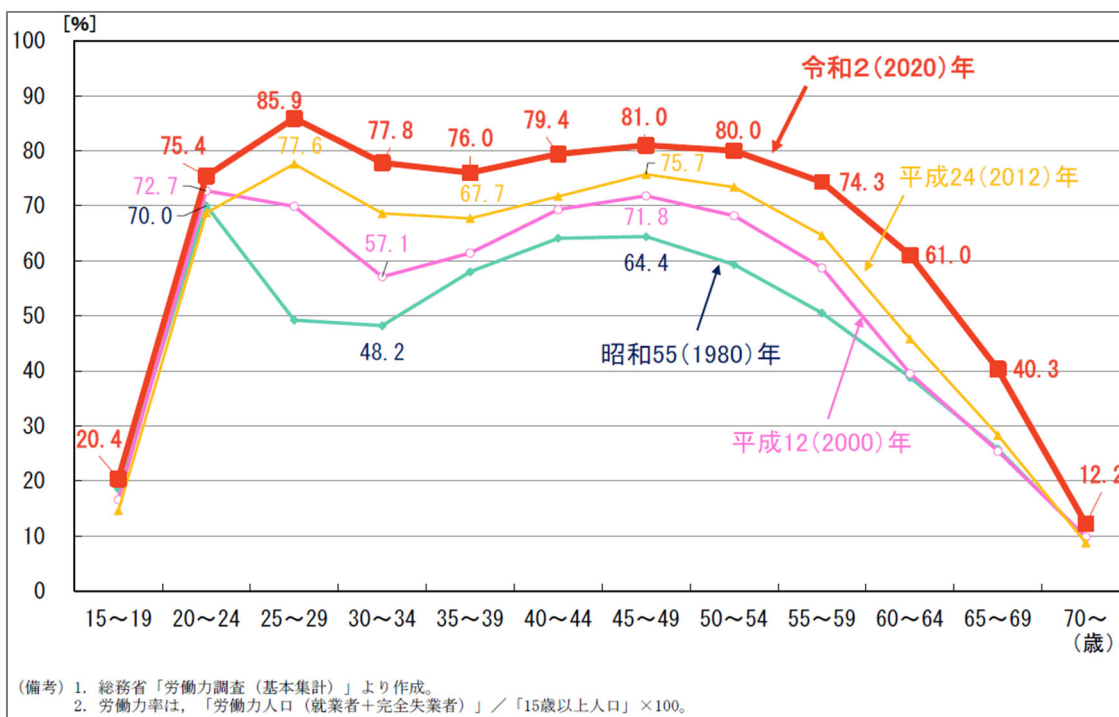
【重点説明ポイント】

- ・以前は、女性で高卒や短大卒が当たり前という時代があったが、近年、「女性の高学歴化」が進んでおり、今では男女ともに5割以上が4年制大学に進学。
- ・このような変化に伴い、近年、夫の学歴より妻の学歴の方が高いというケースも増加している((参考)天野馨南子(2019)『データで読み解く「生涯独身」社会』「学歴上位妻の割合」P129)。
- ・大学・大学院への進学に伴い、学生時代が延長化することで、就職など社会に出るタイミングも遅くなることになる。

(3) 女性の年齢階級別労働力率の推移 ～結婚をめぐる社会情勢の変化～

25歳～29歳の女性の労働力率は、1980（昭和55）年では、5割を切っていたが、2020（令和2）年では8割を超えている。

20歳代後半が社会人としてのキャリア形成の時期と重なるように。



内閣府男女共同参画局『結婚と家族をめぐる基礎データ』「女性の年齢階級別労働力率の推移」（令和3年12月14日）

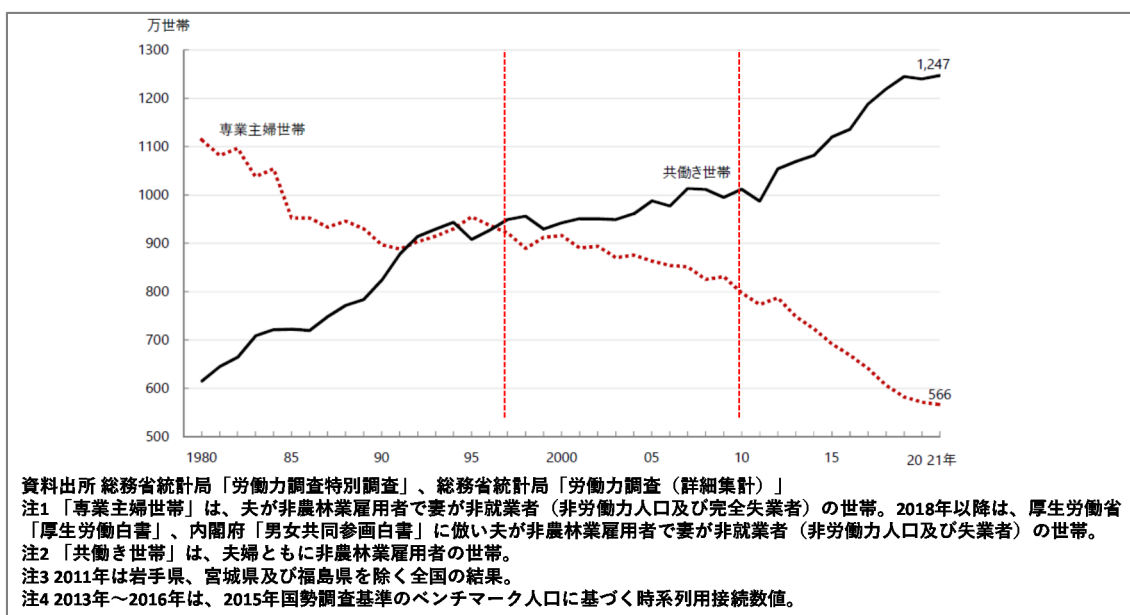
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・労働力率とは、15歳以上で働く意思のある（求職活動を行っている）人の中で、実際に働いている人の割合のこと。
- ・社会における女性の活躍度合いをみるデータとして、この労働力率を使った「年齢階層別女性労働力率のM字カーブ」がよく紹介される。
- ・女性の労働力率がM字カーブになる理由として「出産を機とした労働市場からの退出」がよく挙げられる。これは、子供が出来ることによって30代前半で出産・育児で一度、休職や退職するためである。
- ・日本では、M字カーブが解消されつつあり、1980年代では5割を切っていたが、2020年では8割を超え、20歳代後半の時期もキャリア形成の時期と重なるようになった。
- ・他方、女性の労働力率は上昇したものの、出産・育児のために一時離職し、再就職する30歳以上女性の中には非正規雇用となる女性も多い。こうした実態から、結婚によって、雇用が不安定化することに抵抗感のある女性も多いので、女性のキャリア形成・継続に配慮した結婚支援を行う必要がある。

(4) 共働き世帯と専業主婦世帯の推移 ～結婚をめぐる社会情勢の変化～

1980（昭和55）年以降、夫婦ともに雇用者の共働き世帯は増加し、1997（平成9）年以降は、共働き世帯が専業主婦世帯を上回っている。2010年以降は、共働き世帯が急激に増えている。男女ともに働きながら家事・育児を担うことが求められる時代に。



労働政策研究・研修機構『早わかり グラフでみる長期労働統計』「図12 専業主婦世帯と共働き世帯 1980～2021年」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・ 1980 年前半から半ばまでは、ほとんどが専業主婦世帯であった。
- ・ しかし、90 年代に入ると専業主婦世帯と共働き世帯が拮抗するようになった。つまり、半分の子供たちが働く母親を日常として目にする社会へと変化している。
- ・ 2000 年以降、共働き世帯が急増をみせ、2017 年の直近では専業主婦世帯は 36% にまで減少し、共働き世帯が一般的になっている。
- ・ このような 1990 年以降の急激な「夫婦の働き方」の変化が、若い世代の結婚観や家族意識に影響を及ぼしている可能性もある。

(5) 恋愛や婚活に受け身になりがち

「恋愛は面倒」、「自信がない」との回答も一定割合あり。恋愛に対して、相手からアプローチがあれば考えるが4割。

(複数回答) (%)

	2020年							
	日本		フランス		ドイツ		スウェーデン	
	男性 (n=648)	女性 (n=724)	男性 (n=493)	女性 (n=507)	男性 (n=520)	女性 (n=502)	男性 (n=505)	女性 (n=495)
恋愛よりも勉強や仕事を優先したい	14.5	10.5	16.2	14.0	16.5	11.8	14.1	11.7
恋愛よりも趣味を優先したい	22.4	14.5	17.0	9.3	7.9	7.2	10.1	8.3
交際すると相手との結婚を考える	34.0	39.6	17.6	26.2	36.2	40.8	29.1	32.5
いつも恋愛をしていたい	8.8	9.0	21.1	28.0	29.4	30.3	22.6	16.6
気になる相手には自分から積極的にアプローチをする	22.7	16.6	21.9	13.0	41.3	35.1	36.0	32.7
相手からのアプローチがあれば考える	34.6	45.6	11.2	9.7	16.9	17.1	31.7	19.2
恋愛することで人生は豊かになる	43.1	52.2	52.1	55.8	58.1	66.7	87.1	88.1
恋愛は面倒だと感じる	19.1	19.6	2.0	1.0	5.0	5.4	15.6	13.1
恋愛することに自信がない	14.7	13.7	6.1	6.7	6.9	7.0	2.2	1.2
恋愛はしたいがお金がかかる	15.7	7.9	6.9	3.0	10.0	3.6	4.0	3.4

内閣府子ども・子育て本部『令和2年度少子化社会に関する国際意識調査』

「問1 恋愛に関する考え方」から抜粋

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

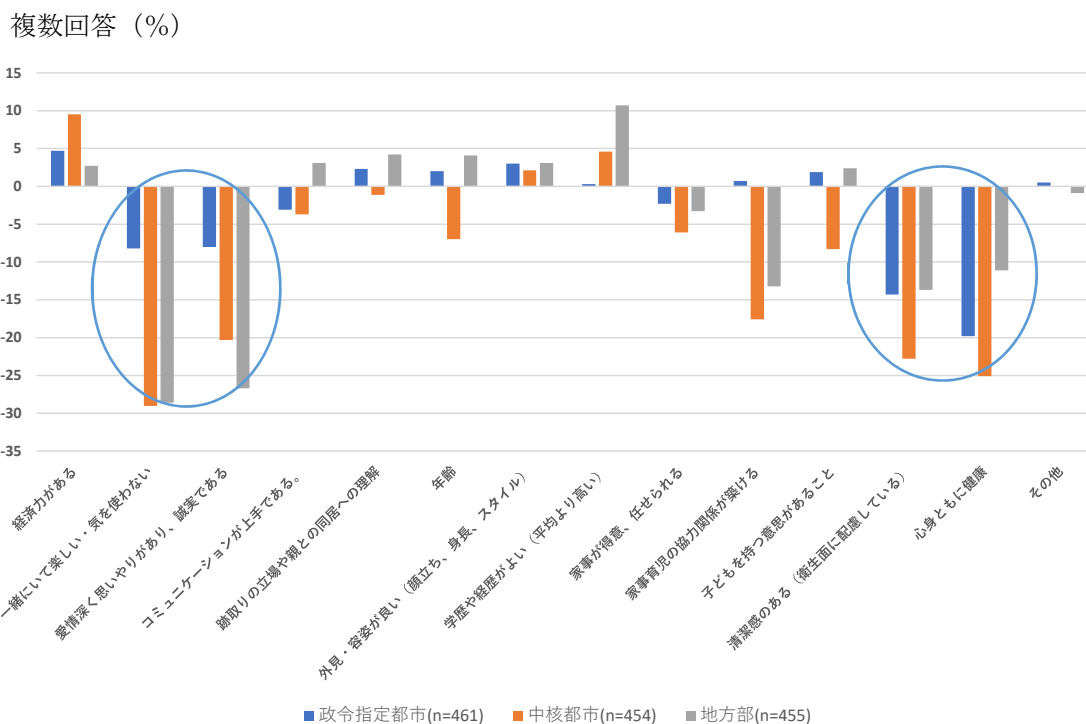
- ・このデータが示す通り、恋愛・婚活に受け身になりがちの方が多。相手へのアプローチを遠慮しがちな利用者に対して、「自分から積極的に連絡したり、お誘いしたりすればうまくいくかもしれませんよ」などと、ボランティアの皆さんが背中を押してあげてほしい。

【講義展開例】

- ・このデータと、受講者の恋愛観と比較させ、「ご自身が恋愛されていた頃、結婚される前を思い出してみ違いなどありますか」など意見を求める。

（6）都市規模別にみる未婚男性の「結婚条件ミスマッチ」

男性は「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」「健康」「清潔感」を過小評価。中核都市・地方部在住の男性は、政令指定都市在住の男性と比べて「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」という条件を過小評価する傾向。



内閣府子ども・子育て本部『結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』（ミスマッチ＝結婚相手から求められていると思う条件（男性回答率）－結婚相手に求める条件（女性回答率））

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・婚活を行う上で「結婚相手から求められる条件」は重要な要因の一つとなる。利用者自身が「相手に求める条件」と相手が「利用者に求める条件」が一致しない（ミスマッチがある）場合、成婚まで至らない可能性が高くなると考えられる。
- ・未婚女性は「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」「健康」「清潔感」といった条件を求めているが、未婚男性はそれほど重要であると認識していないため、利用者にこういった条件を意識してもらえれば、成婚に結び付きやすくなる。
- ・特に、地方部の未婚女性は「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」といった条件を未婚男性が考えているよりも求めている傾向がある。